

NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！



小さな春 みつけた

陽ざしを浴びてゆっくと近くの野原を歩いてみましょう  
マスクをはずして深呼吸…おやッ． また会えたネ！

<思い出しクイズ> なんて読む？

|        |       |
|--------|-------|
| 土筆 ( ) | 鶯 ( ) |
| 雲雀 ( ) | 鱒 ( ) |
| 柘植 ( ) | 菫 ( ) |

答えは裏表紙のページにあります



## みんなの広場



### 百歳を間近にして

高橋 松居

大正11年生まれで現在一人暮らしですが、99年の人生の中で、いろいろな思い出が思い起こされます。大東亜戦争の辛い時期を乗り越えて、良いことも悪いこともいろいろありました。若い頃、出征を見送ったり、防空壕に逃げ込んだり、戦争の時代をくぐりぬけてきました。子供、孫やひ孫の他に、仕事が終わるまでのあいだ他人の子供の面倒をみました。

その後は、夫の介護、大地震、放射能、感染症など人生本当にいろいろあるねー。百年という年月を間近にして思うことは、言うに言われぬ人生…百歳になるまで生きてきたんだなあ…みんなのお陰でここまでくることができた。感謝、感謝です。5年間夫の介護をし、保健師さんから「集中できることをやってみたら？」とアドバイスを受けました。自分の名前ぐらいは書けるようになりたいと習字の手習いを始め、準師範免許まで取得しました。今も毎月手本を見ながら続けています。

長生きの秘訣は、自分の体を守るために手足を動かしたこと。

80歳から92歳まで早朝に歩いて新聞配達をしました。その後、朝のきれいな空気を吸いながら



30分くらい歩くことを日課に続けました。今は歩くことは控えているけれど、自分の体に聞きながら動いています。植物も花も、そして子供も、やはり愛情がなくては育たない。言葉遣いも大事だと思います。そんな心がけをしながら生活しています。

遠く離れていても常に気にかけてくれる家族の存在は大きい。そして、「地域の人やデイサービスさん、ホームヘルパーさんなど沢山の方にお世話になっています。先のことは分からないけれども、自分らしくいられる飯野町の我が家で、これからも暮らしていきたい。」と話して下さった松居さんに、人生の生き方を身をもって教えていただいています。

百歳、万歳！

聞き手：

ケアマネジャー 府野 陽子

## <コロナ禍での介護事業所の現状>

### エッセンシャルワーカーとは

コロナ禍でその呼び名が知られるようになった「エッセンシャルワーカー」。この定義については明確なものはありませんが、「感染リスクがあったとしても、大勢の人々の日々の生活を維持していくために、現場で働き続ける職業の人」の総称です。医療従事者や市役所や保健所に勤める人、介護・福祉等の分野で働く人、スーパーなどの食料品店で働く人、保育士や学校教員、電気・ガス・水道やごみ収集に携わる人など、インフラに関連する職業・仕事がそれにあたります。「社会機能維持者」として広く知られるようになりました。

### 濃厚接触者になった場合の待機期間で差が

エッセンシャルワーカーが濃厚接触者になった場合、待機期間

が通常の人よりも短縮される取扱いとされました。通常8日目で解除ですが、ヘルパーなどは、検査を組み合わせることで5日目に解除です。それだけ、社会機能を維持するために代替がきかない不可欠な存在と言えます。

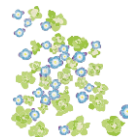
### リスクに対する介護従事者の手当・補償がない

第6波で高齢者にも感染が広がり、ヘルパーを利用する高齢者が陽生や濃厚接触者になる例が増えています。厚労省はこうした場合でもヘルパー事業所に事業継続を求めています。

しかし、派遣されるヘルパーにリスクにふさわしい特別手当が安定的に支給されるような仕組みは不十分で、介護報酬への加算はありません。（医療報酬はあるが）

また、特にヘルパーは、全国的に不足状況が深刻です。

## <令和3年度の事業状況 第3四半期までの累計>



令和3年度においても、新型コロナウイルスの変異株の収束が見られず活動が制限されました。当法人の事業も令和2年度と同水準で推移しました。その中で、居宅介護支援事業は、ケアマネジャーの稼働時間が増加したことにより、利用回数、収入とも増加しました。

|      | 訪問介護・総合事業計 |        | 居宅介護支援・認定調査 |        | 生活支援活動事業 |        |
|------|------------|--------|-------------|--------|----------|--------|
|      | 利用回数       | 収入(千円) | 利用回数        | 収入(千円) | 利用回数     | 収入(千円) |
| R3年度 | 4,196      | 13,073 | 532         | 6,212  | 99       | 547    |
| R2年度 | 4,275      | 13,295 | 505         | 5,761  | 101      | 586    |
| 増減   | △79        | △222   | 27          | 451    | △2       | △39    |

|            |          |      |          |        |
|------------|----------|------|----------|--------|
| R3年度利用回数合計 | 4,827回   | R2年度 | 4,881回   | 54回減   |
| R3年度利用収入合計 | 19,832千円 | R2年度 | 19,643千円 | 189千円増 |

## <安心して住み続けられるまち リレートーク その14



### 短歌と歩む

福島県文学賞といえば、執筆活動を行っている者にとっては、最高の賞です。私は、その賞を令和二年度に受賞することができました。その当時、私は九十一歳を迎えておりましたが、それまでの生涯で、何にも勝る喜びの気持ちをもたらしてくれました。

日本は、「ものづくり大国」として、世界から、高い評価を受けてきました。「ものづくり」と聞いて、多くの人がまず思い浮かべるのは、工場内での製造作業やアトリエでの職人作業ではないでしょうか。

「ものづくり」の定義は、多岐にわたると私は思っています。その中において、一環して通じるものは、やりがいだと思うのです。やりがいを感じるのは、自分が携わったものが完成し、実際に目にしたときです。完成した満足感、そして、それに対して多大なる評価を受けたときに、「がんばってきてよかった」という思いがこみあげてきます。私の場合は、それが短歌だったのです。



NPO やすらぎの郷いの

福島市飯野町字前川16

TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>

クイズの答え  
つくし うぐいす ひばり さわら  
つげ こうじ



私の短歌の始まりは、昭和二十七年、郵政省（現・総務省）の機関誌に、斎藤茂吉が一首を選んでくださったのがきっかけです。茂吉に感銘し、その後は、ただ夢中で短歌を作ってまいりました。

所詮、短歌は、そんなに暮らしに役に立つものではありません。しかし、私にとって、短歌はなくてはならない大切なものです。作る喜びを与えてくれるからです。粗末なものでもいい、自分の今の心の中を表してみようという気持ちから、短歌を作り上げてきました。

受賞作「百合の花」は、主に二つの題材を取り上げました。一つは、私の海軍少年兵としての戦争体験。もう一つは、妻の介護を通しての思いです。それらは、長い人生を振り返っての作品となっています。

残り少ない人生ですが、今後も、この賞の名に恥じないように、感性を磨き、良い短歌を作るために、ただ真摯に短歌と向き合っていきたいと思います。

リハビリの妻と座れる木の根株  
匂ひみし百合の花も過ぎたり

<歌人 菅野 祐輔>